

(Japanese Academy of Learning Disabilities)



日本LD学会会報

第39号

事務局：栃木県カウンセリングセンター内

〒320-0851 宇都宮市鶴田町687-9 ムギショウビル2F TEL. 028-649-0090 FAX. 649-1213

URL. <http://www.soc.nii.ac.jp/jald/>

ADHD、広汎性発達障害と ディスレクシアなどの特異的LD

クリニック・かとう
LD発達相談センターかながわ

加藤 醇子

最近の発達診断は、LD、ADHDの他、広汎性発達障害特に高機能自閉症やアスペルガー障害（症候群）など微妙で診断困難なものがあり、診断する側も診断を聞く家族も振りまわされてしまうような状況があります。LDは、有る領域の能力的な面が問題でありますし、ADHDは、行動面やそこから派生する心理面の問題が大きく、広汎性発達障害は、対人面・社会性の問題が主体です。しかも、それぞれ高率にADHDの症状が合併してくるので、更に複雑です。特に、高機能自閉症やアスペルガー障害は、1対1の診察室での短時間の会話などでは、判断し得ないことも多く、心理検査のパターンでは傾向は云えても診断には至りません。筆者も含め、大学などでも高機能自閉症やアスペルガー障害などは、ADHDと診断されていることが多々あります。医学の診断においても、集団内で問題が生ずるような発達の問題については、医師のみの診察室での診断でなく、心理・言語・OT・教育など多職種によるチームアプローチや行動観察が不可欠と思われま

では、LDはどうでしょうか。ADHDが合併

している場合、読みのLD（発達性読字障害、難読症、読み書き障害、ディスレクシア）があっても、学校では全くといって良いほど、時には、家族も気付いていないことが多いものです。ADHDがあると学級運営が大変なので、先生方はそちらを気にするし、家族は勉強などよりも、学校できちんと欲しいと思うからであります。しかし、LDがある子どもは、生涯、心理的にも経済的にも不利益をこうむっていきます。LDとは、LDを持つ本人は困るけれど、先生は困らない問題と言ったら言い過ぎでしょうか。校内委員会から挙がってくる子どもも大部分がADHDか広汎性発達障害など行動面・対人面の問題です。教育現場で、読み、書き、計算などの評価を実施し、特異的LDへの指導法を開発すべきです。アスペルガー障害にもディスレクシアや書字困難が見られることがあります。子どもが持つ様々な問題を分析し、指導法の開発や、負担を軽減する方法や余暇活動などを提示していくことも大切なことと思います。